

室町幕府の東国政策

杉山一弥著

▶ A5判・380頁／定価：本体 7,200円（税別）ISBN978-4-7842-1739-7 2014年3月刊行予定

従来の中世東国史研究では、鎌倉公方を中心とした鎌倉府体制が注目されてきた。

これに対し本書は、室町幕府の東国政策という視点から室町期東国社会をとらえ直し、その焦点を平時・戦時それぞれの東国の儀礼と秩序、東国における足利氏一族庶子の存在意義、室町幕府・鎌倉府の境界領域ならびに政治・経済的に競合する地域社会における諸階層の動向にあわせて再検討する。

予定内容目次

序章

第一編 室町期東国の儀礼と秩序

第一章 室町幕府における錦御旗と武家御旗

—関東征討での運用を中心として—

旗の故実と作法／武家御旗の運用／錦御旗の運用

第二章 「鎌倉年中行事」にみる鎌倉府の着装規範

—鎌倉公方の服飾を中心として—

正月行事の服飾／寺社参詣の服飾／節日の服飾／通過儀礼の服飾／出陣行列の武装

第二編 室町期東国の足利氏一族

第一章 稲村公方と南奥社会

陸奥下向時の稲村公方／陸奥在国期の稲村公方／鎌倉帰還後の稲村公方

第二章 篠川公方と室町幕府

篠川公方と義持・義量期室町幕府／篠川公方と義教期室町幕府／篠川公方府の構造／篠川公方と室町幕府の通交関係／篠川公方の滅亡

第三章 堀越公方の存立基盤

—経済的側面を中心として—

堀越公方の居館／堀越公方と京都・鎌倉寺院領／堀越公方への礼銭／堀越公方と都鄙和陸

補論 堀越公方と足利鐮阿寺

第三編 室町幕府の東海・南関東政策

第一章 室町幕府奉公衆葛山氏

鎌倉・南北朝期の葛山氏／室町幕府と葛山氏の接近／葛山氏と駿河守護今川氏／葛山氏と足利將軍

第二章 室町幕府と甲斐守護武田氏

室町幕府と武田氏の接近／在京都期の武田氏と甲斐情勢／甲斐帰国後の武田氏と細川一門

第三章 室町期上総武田氏の興起の基底

—武田信長の動向を中心として—

公方足利持氏期の武田信長／公方足利成氏期の武田信長／上総武田氏の展開

第四章 室町期の箱根権現別当と武家権力

三十四世弘実の還補と頼印大僧正／三十六世證實の登場と大森氏一族／三十六世證實の勢威と鎌倉府体制／三十七世実雄と永享の乱／三十八世禅雄と室町幕府

第四編 室町幕府の東北・北関東政策

第一章 室町幕府と下野「京都扶持衆」

室町幕府と宇都宮持綱／室町中期宇都宮氏一族の推移／室町中期那須氏一族の推移

第二章 室町幕府と常陸「京都扶持衆」

室町幕府御料所の常陸国中郡莊／常陸小栗氏の乱の背景と構造／常陸守護山入佐竹氏と室町幕府

第三章 室町幕府と出羽大宝寺氏


室町前期の大宝寺氏と奥羽情勢／室町幕府と大宝寺氏の接近／室町幕府における貢馬と大宝寺氏／室町後期の北陸諸国と大宝寺氏

終章

すぎやま・かずや・・・1973年生、國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位取得満期退学。博士（歴史学）。現在、國學院大學文学部兼任講師。主著に、「畠山国清の乱と伊豆国」（黒田基樹編『足利基氏とその時代』戎光祥出版、2013年）ほか。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	室町幕府の東国政策		本体7,200円(税別)	ISBN978-4-7842-1739-7
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代引（書籍代+送料400円を現品と引き替えにお支払い）				書店番線印

本書HPのQRコード

書店番線印

*東国における武士勢力の成立と展開

山本隆志著 思文閣史学叢書 東国武士論の再構築
 武士研究は社会経済史的在地領主制論から国家史的職能論へと変化してきたが、それらをふまえた政治史的論究が求められている。本書では、東国武士を武士勢力としてとらえ、京・鎌倉での活動と運動しながら本領で法会・祭礼を主催するなかで政治的支配力を形成していることを、具体的に論じる。
 ▶A5判・384頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1601-7

室町幕府管領施行システムの研究

亀田俊和著
 応仁・文明の大乱以前の室町幕府における根幹の制度であり、將軍の主従制的支配権を強化・促進し、全国の武士・寺社本所に権益を与えることによって政権基盤の強化に大きな貢献を果たしたと評価できる管領施行システムの沿革と意義を分析・解明する。
 ▶A5判・544頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1675-8

中世東国の支配構造

佐藤博信著 思文閣史学叢書
 鎌倉府の歴史的性格を決定づけた武州河越合戦、鎌倉府体制下の相模守護のあり方、国人層とその関係、奉行人の軌跡、古河公方足利氏を生み出した東国の内乱＝享徳の大乱の諸段階の検討など、室町・戦国期の政治過程を、更に鐔阿寺文書・正木文書・喜連川家文書・福田家文書などの関係史料を検討。
 ▶A5判・410頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-0554-3

*戦国期東国の都市と権力

市村高男著 思文閣史学叢書
 東国戦国史の雄である後北条氏に対決した下野の小山氏、下総の結城・山川氏、常陸の佐竹・多賀谷・土岐・岡見氏、武蔵の成田氏などの諸権力を詳細に分析し、それとの関連で都市(城下町)の実態を追求、併せて当該地域の歴史像を明らかにしている労作。
 ▶A5判・580頁／本体10,800円(税別) ISBN4-7842-0855-0

中世の契約社会と文書

村石正行著
 売買・貸借などの契約関係を題材に、それに関わる契約者双方の文書作成のあり方を検証、「塵芥集」における法慣習なども援用しながら、双方向の文書授受とそれにまつわる文書作成が一般的におこなわれていた可能性を示す。
 ▶A5判・352頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1668-0

公家と武家II「家」の比較文明史的考察

笠谷和比古編
 公家(貴族)と武家に焦点を合わせた共同研究の第二報告集。「家(イエ)」の成立と展開を統一テーマに設定し、「家」の形成に公家・武家という階層が果たした役割を追究する。日本のみならず広く中国・中東・西洋の事例も扱い、22篇の論文を収録。さらに家族・親族論の新たな試みともなっている。
 ▶A5判・530頁／本体9,400円(税別) ISBN4-7842-1019-9

*日本中世政治文化論の射程

山本隆志編
 筑波大学大学院にて24年間にわたり、中世東国社会史の諸問題に取り組んだ編者。その指導・学恩を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究成果を収録した論文集。
 【内容】戦国期における足利將軍家元服儀礼の政治的背景／観音寺所蔵「那須繼図次第」について／前田家御寶塔 他
 ▶A5判・344頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1620-8

増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究

森茂暁著
 南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあげて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文庫出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。
 ▶A5判・612頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1416-7

室町期東国社会と寺社造営

小森正明著 思文閣史学叢書
 寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動―寺社領経済―の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。
 ▶A5判・356頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1421-1

*戦国期関東公方の研究

阿部能久著 思文閣史学叢書
 関東府の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鐔阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。
 ▶A5判・320頁／本体5,700円(税別) ISBN4-7842-1285-X

*続中世東国の支配構造

佐藤博信著 思文閣史学叢書
 南北朝期から戦国期における東国の権力構造の諸問題を多方面から明かした論考18篇を収める。関東足利・上杉両氏の動向を中心に、内乱、家臣団をめぐる諸相、都市・寺社論。さらには下総光福寺文書・鐔阿寺文書・常陸穴戸家文書・扇谷上杉朝良文書・上総大野家文書などの史料論にもおよび論集。
 ▶A5判・358頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-0916-6

*室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編
 踏まえる、拓く―若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来。
 【内容】南北朝・室町期における公家と武家/室町殿の朝廷支配と伝奏論/南北朝期の守護論をめぐって/室町幕府による都鄙の権力編成/戦国期政治権力論の展開と課題/中世後期の在地領主研究/習俗論としての社会史/ものはもどるのか―中世の融通と徳政 他
 ▶A5判・408頁／本体4,600円(税別) ISBN978-4-7842-1371-9

中世京都の空間構造と礼節体系

桃崎一郎著
 貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は? 参内するときはどこまで牛車を降りればよいのか? 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。
 ▶A5判・584頁／本体7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1502-7

公家と武家IV 官僚制と封建制の比較文明史的考察

笠谷和比古編
 国際日本文化研究センターで行われた公家(貴族)と武家に焦点を合わせた共同研究シリーズ最終回。武士層が成長した地域と、文官支配が優越した地域との差異に着目。その歴史的な意味を多角的に検討した論集。
 ▶A5判・544頁／本体8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1389-4

中世日本の政治と文化

森茂暁著 思文閣史学叢書
 鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとき、さらに『増鏡』や『太平記』、「博多日記」という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明らかにした論考15篇を収録。
 ▶A5判・480頁／本体9,000円(税別) ISBN4-7842-1324-4

*中世寺院社会の研究

下坂守著 思文閣史学叢書
 中世社会における影響力の大きさにもかかわらず、その活動を総体として把握しようとする試みがほとんど行なわれてこなかった比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺―僧侶たちによる合議―を基礎単位とした中世寺院の広がりや寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察し、中世社会の本質を探る。
 ▶A5判・598頁／本体9,800円(税別) ISBN4-7842-1091-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
 電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。